笑ひ草

和尚さんと子僧

和尚「子僧や、子僧や」　子僧「何か御用で」　和尚「ふー他でもない、ふ前は日頃中々悧口で賢いが、どーだ今和尚のすることに答が出來るか」　子僧「エー何でもやります」　和尚生意氣をいふなと思って、いきなり兩掌をポンと打って　和尚「さー子僧、今鳴ったのは右の掌か左の掌か」　子僧一寸考へて其儘立って、敷居の處へ行つて、敷居を跨げたなりで、子僧「さー和尚さん、私が今此室へ這入るか出るか當てゝご覽」　和尚「アッそりや不可、私が這入るといふと汝は出るに違ない、私が出るといへば汝は這入る積りだろう」　子僧「じやー和尚さんの手を鳴らしたのも其通り、私が右が鳴ったといへば左だと仰やる、左が鳴ったといへば右だと仰やるのでせう」

錢の音で借金拂ひ

これは一人の貧乏人、鰻が大好だけれど買って食べる丈錢がない、仕方がないから毎日夕方になると出かけて行って　鰻屋の店の處に立つて鰻を燒く香を嗅いで來て、夫から御飯を食べる事にして居ました、夫を鰻屋の店の者が見付けて、一番戯ってやらうと思って、三十日の日になつて其人の處へ鰻代を請求に行きました。「此間から恰十日の間、私しの店へ鰻を嗅ぎに御出でたから、鰻代總べて〻五圓御拂い下さい」と申しますと、其人は「へゝー　五圓になりますか、一寸御待ち下さい、今五十錢銀貨で揃へて御拂ひ致しますから」といって、奥へ這入って行って「一枚二枚三枚……九枚十枚」と錢を勘定する音をさせて、夫か

ら出て來て「さー五十錢銀貨十枚御拂ひしました
から、請取を下さいと」いひます。店の者不思議
な顔して「れ錢を勘定する音は聞きましたがまだ
拂って呉れないじやありまんか」「だって私も鰻を
食べないで、たゞ香だけ嗅いだんですから、れ拂
ひも音だけで宜いでせう」

一口ばなし

熊本　合志章子

甲　雷さんはよほどれそろしー者でありますね
乙　なるほどおそろしー
甲　たこの足は八本ありますよ
乙　いかにもさよーで

謎々欄へ

三河　近藤とき子

一、門番人と掛けて
一、楠公父子と掛けて
一、奇麗な座敷と掛けて
一、虚無僧と掛けて

◉懸賞考へもの

先日來皆さんから、澤山考へものが出ましたが今
度は私にも一つ出さして見て下さい（やまとの翁）

(1) 十八を二分して（鳥の名一つ）
(2) 六を二分して（草の名一つ）
(3) 二十四を三分して（家道具の名一つ）
(4) 千〇十を三分して（日本の札所）
(5) 私は大變子供に嗜かれる滋養品で、原籍は外國
です、頭の數と足の數とを合はすと十二になりま